



Title	関西弁動詞、形容詞の「テ形」の形成について
Author(s)	山下, 好孝; YAMASHITA, Yoshitaka
Citation	国際広報メディア・観光学ジャーナル, 35, 107-118
Issue Date	2022-11-17
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/88239
Type	departmental bulletin paper
File Information	07_yamashita_no.35.2022.pdf



関西弁動詞、形容詞の「テ形」の形成について

モンクット王ラカバン工科大学教授、北海道大学名誉教授
山下 好孝

Formation of Verb and Adjective “TE-forms” in Kansaiben Japanese

YAMASHITA Yoshitaka

In Standard Japanese the two verb forms, TA-form and TE-form, are very similar. The both forms have stress accent in same mora or lack it.

In Kansaiben Japanese TE forms have two variations according to its function: adverbial use and conjunctive use. In adverbial usage Kansaiben TE-forms lack accent but maintain High Tone or Low Tone of their original dictionary forms. On the other hand in conjunctive usage Kansaiben TE-forms have similar phonetic structure as TA-forms.

In Yamashita (2019), the formation of Kansaiben TA-forms is analyzed. The formation of Kansaiben TE-forms in conjunctive usage also depends on three factors

- 1) Their tones of dictionary forms: High or Low
- 2) The type of their conjugation: 5-dan verbs, 1-dan verbs or special verbs
- 3) The number of morae which compose their dictionary forms

Finally two variations of adjective TE-forms were analyzed: present forms and past forms.

abstract

1 はじめに

「テ形」とは用言である動詞、形容詞（イ形容詞）が活用し、用言に連なる機能、もしくは文と文の接続の機能を担う形式である。テ形の句は一種の副詞として機能している。

- 1) 動詞：腕を振って歩く。
- 2) 動詞：おじいさんは山へ行って、おばあさんは川へ行った。
- 3) 形容詞：うまくて安い牛丼
- 4) 形容詞：暑くて、よく眠れない。

動詞、形容詞の「テ形」は、国語学で言うところの連用形の一つとされている。時制の要素は担わず、現在形の文でも過去形の文でも形態は同一である。

- 5) 腕を振って歩く／歩いた。
- 6) 暑くて、よく眠れない／よく眠れなかった。

五段動詞の「テ形」は「サ行」のものを除き、いわゆる「音便」を伴って生成される。

7) 五段動詞のテ形

- 書く → 書いて（「行く」のみ促音便「行って」となる）
- 泳ぐ → 泳いで : イ音便
- 立つ → 立って : 促音便
- 死ぬ → 死んで : 撥音便
- 飛ぶ → 飛んで : 撥音便
- 読む → 読んで : 撥音便
- 送る → 送って : 促音便
- 買う → 買って : 促音便
(関西弁では「買うて」というふうにウ音便になることもある。)
- 話す → 話して

8) 一段動詞（上一段、下一段）のテ形

- 起きる → 起きて
- 見せる → 見せて

9) 変格動詞（カ行、サ行）のテ形

- 来る → 来て

する → して

音声的には辞書形にアクセント（強勢）があるものは、テ形になってもアクセントを保持し、辞書形にアクセントがないものは、テ形になってもアクセントが現れない。「㇇」の記号は、その前の拍からトーンが降下し、アクセント（核）を形成することを示す。

- 10) 書く (か㇇く) → 書いて (か㇇いて)
 聞く (きく) → 聞いて (きいて)
 帰る (か㇇える) → 帰って (か㇇えって)
 見る (み㇇る) → 見て (み㇇て)

一段動詞においては、3拍以上でアクセントを持つ動詞のテ形で、アクセントが一つ前の拍に移動する現象が見られる。

- 11) 起きる (おき㇇る) → 起きて (お㇇きて)
 食べる (たべ㇇る) → 食べて (た㇇べて)

日本語標準語において、動詞テ形は用言に前置されるいわゆる「連用用法」と、テ形で2文が接続される、いわゆる「連用中止法」の二つの用法がある。

- 12) 連用用法
 食べる → 食べて - ください 食べて - いる

- 13) 連用中止法
 食べる → 朝ご飯を食べて、出かけた。

標準語ではこれらの二つの用法で動詞テ形の発音に変化はない。また形容詞のテ形の形態も一種類だけである。

- 14) 暑い → 暑くて
 美しい → 美しくて

ただし、「いい」だけは不規則形を有する。

- 15) いい → よくて

しかし関西弁では様相が異なる。標準語にはない機能の違いによる形態の違いが生じているのである。以下、関西弁の動詞、形容詞の順で詳しく考察する。次の節では関西弁動詞のテ形の連用法について詳述する。

2 関西弁動詞「テ形」の連用用法

関西弁の動詞の辞書形（終止形）は、高く始まる「高起式（H）」と低く始まる「低起式（L）」の二つに音声的に分類できる。標準的な関西弁の辞書形では、標準語の辞書形に見られるアクセントは「(人が) おゝる」を除き観察されない。

- 16) 高起式（H）：聞く、泳ぐ、話す、喜ぶ、死ぬ、励む、走る、買う
；寝る、着る；する
- 17) 低起式（L）：書く、漕ぐ、指す、立つ、読む、取る、飼う
；食べる、見る；来る

関西弁動詞の連用用法のテ形は比較的簡単に生成される。つまり、辞書形が高起式の動詞であれば、テ形も高起式となり、アクセントは生じない。辞書形が低起式であれば、テ形も低起式となる。動詞が五段動詞であるか、一段動詞であるか、変格動詞であるかは関与しない。

- 18) 高起式（H） 聞く H 聞いて -H くだゝさい
買う H 買って -H くだゝさい
H 買うて（こうて） -H くだゝさい
寝る H 寝て -H くだゝさい
する H して -H くだゝさい

- 19) 低起式（L） 遊ぶ L 遊んで -H くだゝさい
起きる L 起きて -H くだゝさい

ただし、低起式の一段動詞で2拍のもの、低起式のカ行変格動詞「来る」は例外となる。

- 20) L 見る → H 見て -H くだゝさい
L 出る → H 出て -H くだゝさい
L 来る → H 来て -H くだゝさい

なぜこのように低起式から高起式に変化するののかについては、テ形の生成順序が次のようになっていると考えたと説明がつく。

- 21) 辞書形 → ナイ形（未然形） → 連用形 → テ形連用用法

まず高起式からこの派生を説明する。

22) 五段動詞

H 話す (はなす) → H はなさ¹へん、H はなさ¹ない →
 H はなし ます → H はなして-H くだ¹さい、
 H はなして-H いる

23) 一段動詞

H 変える (かえる) → H かえ¹へん、H かえ¹ない →
 H かえ ます → H かえて-H くだ¹さい、H かえて-H いる

まず動詞辞書形からナイ形に変化したとき、高起式は維持されるが、後ろから3番目の拍にアクセントが生じる。関西弁の動詞ナイ形には、現在「～へん」という伝統的な形式と、「～ない」という標準語の影響を受けて新たに生まれたと考えられる形式がある。特に、後者は語尾が「～い」であることから形態的には形容詞となっているとも考えられる。ちなみに関西弁の形容詞は、ほとんどが高起式でかつ後ろから3番目の拍にアクセントが落ちる。

24) H 暑い あ¹つい25) H 冷たい つめ¹たい

2拍の形容詞も高起式となり、第一拍目にアクセントが落ちる

26) H 濃い こ¹い27) H 酸い す¹い (標準語：酸っぱい)

例外としては以下のものがある。

28) L おいし¹い29) L しんど¹い

30) L いい

次に低起式の3拍以上の動詞についても見てみる。

31) L 食べる たべる → L たべ¹へん、たべ¹ない →
 L たべ ます → L たべて-H くだ¹さい、
 L たべて-H いる

32) L 掴まる つかまる → L つかまら¹へん、L つかまら¹ない →
 L つかまり ます → L つかまって-H くだ¹さい、
 L つかまって-H いる

続いて、低起式2拍の五段動詞について見てみる。

- 33) L 切る きる → L きらㇿへん、きらㇿない →
L きり ます → L きって-H くだㇿさい、L きって-H いる

低起式2拍の五段動詞動詞の場合は、他の場合と同じように変化する。しかし次に見る低起式2拍の一段動詞および変格動詞の場合は状況が異なる。

- 34) L 見る みる → H みㇿない H みㇿひん
H み ます → H みて-H くだㇿさい、H みて-H いる

- 35) L 来る くる → H こㇿない きㇿひん
H き ます → H きて-H くだㇿさい、H きて-H いる

連用形がナイ形（未然形）から派生すると考えると、低起式から高起式への変化の説明がつく。ナイ形のアクセントの位置は、一律後ろから三番目の拍であるという事実から、ナイ形において3拍に変わる動詞はすべて高起式になるのである。先頭拍にアクセントを置くためにはどうしても高く発音し始めるしかないからである。

「見る」「出る」「来る」は、テ形になるとき低起式から高起式に変化するが、高起式から低起式に変化する動詞もある。それは「H 知る」である。

- 36) H 知る しる → H しらㇿない、しらㇿへん →
H しり ます → L しって-H くだㇿさい L しって-H いる

「知る」は統語的に特別な動詞である。他の動詞は「～て-いる」の否定形に「～て-いない」の形式を取るが、「知る」は例外となる。

- 37) L 食べて H いる → L 食べて H いない
38) L 知って H いる → *L 知って-H いない
→ H 知らない

このような統語的な特異性が音韻に表れていると考えられないだろうか。

本節は関西弁動詞のテ形連用法について考察してきた。次節では動詞連用形の中止用法について考察を進める。

3 関西弁動詞、連用中止法の連用形とテ形

すでに述べたように、日本語標準語では動詞テ形の連用用法と中止用法に音韻的な違いはない。一方、関西弁では両者のアクセント形式に違いが見ら

れる。

結論から先に述べると、関西弁テ形の中止用法は、関西弁のタ形形成と同じルールが適用される。そして通常の連用中止法の連用形と、アクセントの位置は共通する。タ形の形成に関しては、詳しくは山下（2019）を参照されたい。

関西弁テ形中止形、連用中止形は以下の三つの要因によってその生成過程が異なる。

39) 動詞連用中止形形成の3要因

- (A) 五段動詞 か 一段動詞か
- (B) 高起式 H か 低起式 Lか
- (C) 拍数が2拍か、3拍か、4拍以上か

では、それぞれのケースに分けて、連用中止用法のテ形の形成を見てみる。

40) 五段動詞、高起式 拍数2

H 聞く→ H 聞^レき H 聞^レいて
 H 飛ぶ→ H 飛^レび H 飛^レんで
 H 死ぬ→ H 死^レに H 死^レんで

41) 五段動詞 低起式 拍数2

L 指す→ L 指^レし L 指^レして^レ
 L 切る→ L 切^レり L 切^レって^レ
 L 読む→ L 読^レみ L 読^レんで^レ

42) 五段動詞 高起式 拍数3

H 走る→ H 走^レり H 走^レって
 H 失う→ H 失^レい H 失^レって H うしの^レうて
 H 冷やす→ H 冷や^レし H 冷や^レして

43) 五段動詞 低起式 拍数3

L 入る (はいる) → L 入^レり L 入^レって
 L 参る (まいる) → L 参^レり L 参^レって
 L 食わす (くわす) → L 食わ^レし L 食わ^レして
 L 作る (つくる) → L 作^レり L 作^レって

このグループで「入る」と「参る」は二重母音「ai」を含むため連用中止形でアクセントの位置が後ろにずれたと考えられる。

44) 五段動詞 高起式 拍数4以上

H 頑張る→ H 頑張^レり L 頑張^レって
 H 嫌がる→ H 嫌が^レり L 嫌が^レって

H いたぶる→ H いたぶㇿり L いたぶㇿって

45) 五段動詞 低起式 拍数4以上

L 拘る(こだわる)→ L 拘ㇿり L 拘ㇿって

L 差し出す→ L 差し出ㇿし L 差し出ㇿして

L 捕まる→ L 捕まㇿり L 捕まㇿって

五段動詞のテ形の場合は、基本的に後ろから3番目の拍にアクセントが落ちるが、低起式の2拍動詞の場合のみアクセントは最終拍に現れるという特性を示す。

次に一段動詞の場合を見てみる。

46) 一段動詞 高起式 拍数2

H 寝る→ H 寝ㇿ L 寝ㇿて

H 着る→ H 着ㇿ L 着ㇿて

H 居る→ H 居ㇿ L 居ㇿて

47) 一段動詞 低起式 拍数2

L 見る→ H 見 H 見ㇿて

L 出る→ H 出 H 出ㇿて

48) 一段動詞 高起式 拍数3

H 開ける→ H 開ㇿけ H 開ㇿけて

H こける→ H こㇿけ H こㇿけて

H 焼ける→ H 焼ㇿけ H 焼ㇿけて

49) 一段動詞 低起式 拍数3

L 見せる→ L 見せㇿ L 見せㇿて

L 落ちる→ L 落ちㇿ L 落ちㇿて

L 起きる→ L 起きㇿ L 起きㇿて

50) 一段動詞 高起式 拍数4以上

H 調べる → H 調ㇿべ H 調ㇿべて

H 聞こえる→ H 聞こㇿえ H 聞こㇿえて

H 諦める → H 諦ㇿめ H 諦ㇿめて

51) 一段動詞 低起式 拍数4以上

L 捕まえる→ L 捕まㇿえ L 捕まㇿえて

L 捉える → L 捉ㇿえ L 捉ㇿえて

L 加える → L 加ㇿえ L 加ㇿえて

一段動詞の場合は、五段動詞より複雑な様相を呈している。まず2拍のもの

は高起式でも低起式でも語末から2番目の拍にアクセントが落ちる。3拍以上の一段動詞のテ形は基本的に後から3拍目にアクセントが落ちるが、低起式の3拍動詞に限り、後から2番目の拍にアクセントが落ちるという特性を示す。

そして連用中止法の連用形も、テ形と同じ拍にアクセントが落ちる。

以上のことから次のグループの動詞が不規則となる。

- 52) 五段動詞 低起式 2拍 のテ形 → アクセントは最終拍
 一段動詞 高起式 2拍 のテ形 → アクセントは最後から2番目の拍
 一段動詞 低起式 2拍 のテ形 → アクセントは最後から2番目の拍
 一段動詞 低起式 3拍 のテ形 → アクセントは最後から2番目の拍

そして「テ形」のデフォルトのアクセント規則は次のようになる。

- 53) 上記以外のグループの動詞のテ形 → アクセントは最後から3番目の拍

最後に、変格動詞のテ形についても触れておく。

- 54) L 来る → H 来(き) ㄗ H 来ㄗて
 H する → H し ㄗ H しㄗて

どちらも一段動詞の2拍のものと同様、後から2番目の拍にアクセントが落ちている。これらが主要部を構成する複合動詞になっても同様である。

- 55) L 持って来る → L 持って来(き) ㄗ、L 持ってきㄗて
 H 連れて来る → H 連れて来(き) ㄗ、H 連れてきㄗて
 H 勉強する → H 勉強し、 H 勉強しㄗて
 L 掃除する → L 掃除し、 L 掃除しㄗて

以上のように、同じテ形と言っても、関西弁の場合は連用用法と連用中止用法で形態が異なった。これは標準語動詞には見られない特徴である。

次に形容詞のテ形について考察を進める。

4 関西弁形容詞のテ形

関西弁の形容詞テ形は標準語と同じく、形容詞同士を接続する用法と、形容詞述語節を他の節に接続する用法の2つがある。

- 56) 標準語：うまくて安い牛丼

- 57) 関西弁：L うもうて H 安い牛井
58) 標準語：値段が安くて、助かる。
59) 関西弁：値段が L安うて / L安くて、助かる

基本的に関西弁の形容詞は高起式で始まるが、テ形になると低起式に変わる。

- 60) H 安い やテすい → L やすテくて / L やすテうて
61) H 暑い あテつい → L あつテくて / L あつテうて
62) H 酸っぱい すテっぱい → L すテっぱくて / L すテっぽうて

2拍の形容詞はテ形でも高起式を保つ。

- 63) H 濃い こテい → H こテくて / H こテうて

例外的な「おいしい」「しんどい」「いい」はそれぞれ次のようになる。

- 64) L おいしテい → L おいしテくて / L おいしテうて
65) L しんどテい → L しんどテくて / L しんどテうて
66) L いい → H よテくて / H よテうて

標準語では連用節中の形容詞テ形は時制の影響を受けない。

- 67) 高くて、買えない。
68) 高くて、買えなかった。

ところが関西弁だと過去の事象の場合は、いわば形容詞テ形の過去形が生起しうる。

- 69) 現在形：高くて/たこうて、買われへん/買えへん。
70) 過去形：高かつて、買えなんだ/買えへんかった/買えんかった。

この現象は必ずしも見られるものではなく、地域、年齢層によって異なる。

- 70) の文は次のようにもなる。
71) 高くて/たこうて、買えなんだ/買えへんかった/買えんかった。

インターネットで検索をかけると次のような例文に遭遇した。

- 72) 安かつて買ったカラムーチョの粉付きの一平ちゃん焼きそば食べてるけどめっちゃ辛い。
73) 作業が素早く説明もわかり易かつてとても良かったです。
74) おニューのCONVERSEの靴、やっと買いました アウトレットで3500円!

半額でめっちゃ安かって、即決でしたね！

このような形容詞「テ形」の過去形は関西弁独特のものであると言えよう。そしてこの用法は動詞の否定形にも生起する。

75) うまく出来んかって、恥ずかしかった。

この形容詞「テ形」の過去形は次のような派生のプロセスを経ていると考えられる。

76) 安い → 安くて/安うて
安かった → 安かって

そこから、さらに逆接の接続表現にも同様の現象が観察される。

77) 安くて/安うて → 安くても/安うても
安かった → 安かって

以下はインターネットで採取した例である。

78) 他の式場は見積もりが安かって、衣装でかなり追加をとられたりするのですが、

79) う～ん、でも、こんなスタンドで売っているんだからもうちょっと安かってもいいんじゃないかな……

80) いくら安かってあなたが希望する家ではなかったら家を購入する意味はないですよ。

このような形容詞「テ形」の過去形とも言える形式が関西弁には存在するのである。

5 | 最後に

山下 (2019) では関西弁の動詞タ形について考察した。今回、動詞および形容詞のテ形を考察したわけだが、動詞タ形の時以上に複雑であった。

動詞テ形には連用用法と、連用中止用法の二つがある。前者では語頭の音調 (高起式、低起式) は原則として保持され、アクセントは生じない。しかし、連用中止法では山下 (2019) で考察した動詞タ形と同様の規則が適用された。

形容詞テ形に関しても、現在形と過去形の「テ形」があるという関西弁特有の規則について考察した。このことから標準語より圧倒的に歴史の長い

関西弁は、より複雑な文法、音韻規則を有すると結論づけられる。

参考文献

- 山下好孝 (2013) 『関西弁講義』 講談社学術文庫
山下好孝 (2019) 『関西弁の「タ形」の形成について』、北海道大学高等教育推進機構
国際教育研究部、『日本語・国際教育研究紀要』22, pp76-86
<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/73447>

(令和4年5月6日受理、令和4年7月26日採択)